

冬季オリンピック 「ガルミッシュ＝パルテンキルヘン大会」

Olympische Winterspiele 1936 in Garmisch-Partenkirchen

山田 徹 雄
Tetsuo YAMADA

要 旨

オーバーバイエルンの保養地、ガルミッシュ＝パルテンキルヘンにおいて、1936年に開催された冬季オリンピックの経済効果を分析した。オリンピック期間中、当地を訪れた者は主として鉄道を利用していること、外国人滞在者としては南東ヨーロッパを起点とするものが著しい増加を示したことが確認された。

キーワード：ガルミッシュ＝パルテンキルヘン、冬季オリンピック

はじめに

第4回冬季オリンピックは、1936年2月6日から16日にかけてガルミッシュ＝パルテンキルヘンにおいて開催された。本稿では、当該オリンピック大会の開催に至る経緯、経費、および期間中の宿泊動向について、オリンピック委員会編集の公式記録（Organisationskomitee für die IV. Olympischen Winterspiele 1936 Garmisch-Partenkirchen E.V., *IV. Olympische Winterspiele 1936 Amtlicher Bericht*, Berlin, 1936）（以下、OW1936と略記）に基づき整理する⁽¹⁾。

文中、国際オリンピック委員会の表記はドイツ語表記（I.O.K.）ではなく、英語表記（IOC）とする。また同委員会の開催する会議について、Sitzungはセッション、Tagungは総会と記述する。

1. 第4回冬季オリンピック開催地の決定

1936年の夏季オリンピックは、1931年にすでにベルリンに決定していた。これ以降、ベルリン大会が開催されるまでの間、ドイツにおけるユダヤ人選手のオリンピック参加問題、これに対するアメリカによるオリンピックのボイコットへの動きが展開される⁽²⁾。

1931年4月25日～27日 バルセロナにてIOCのセッションが開催され、第4回冬季オリンピックの開催地は、1933年にウィーンで開催されるIOCの総会で決定されることとなった。

これを受け、ガルミッシュ＝パルテンキルヘン観光局（Die Kurverwaltung Garmisch-Partenkirchen）はドイツ・オリンピック委員会に対して1936年の第4回冬季オリンピックをマルクト・ガルミッシュおよびマルクト・パルテンキルヘンで開催する意志を示す以下の申請書（Gesuch）を送った。

「自治体ガルミッシュおよびパルテンキルヘンは1936年の冬季オリンピックの開催をガルミッシュ＝パルテンキルヘンに誘致することを求める。

概算では、オリンピック冬季競技のために観覧席および広報を含めて一流のスポーツ施設の建設に約25万～30万ライヒスマルク必要である。両自治体はこの費用を引き受ける用意がある。」⁽³⁾

1933年6月7日～11日にウィーンでIOC第30回総会が開催され、ドイツ・オリンピック委員会の提案に基づいて開催地をガルミッシュおよびパルテンキルヘンの両自治体に決定した。その際、第4回冬季オリンピックは1936年に開催されることは決定されたが、詳細な期日は未定であることが確認された。あわせて、大会組織委員会の代表にカール・リッター・フォン・ハルト博士（Dr. Karl Ritter von Halt）が決定した⁽⁴⁾。カール・リッター・フォン・ハルトは、ドイツ銀行の頭取でIOC委員を務めていた⁽⁵⁾。

1933年7月1日 ガルミッシュ＝パルテンキルヘンのステーションホテル（Bahnhof-Hotel in Garmisch-Partenkirchen）において最初の基本協議がなされ、競技は1936年2月6日、木曜日から2月16日、日曜日の期間に開催されることが正式決定された⁽⁶⁾。

1933年7月24日～25日に、ドイツ・アイススケート連盟指導者およびドイツ・ボブスレー連盟指導者（Die Führer des Deutschen Eislaugverbandes und Deutschen Bobverbandes）であるヘルマン・クレーベルク（Hermann Kleeberg）とエルヴィン・ハッハマン（Erwin Hachmann）は自治体ガルミッシュおよびパルテンキルヘンとの間で、組織委員会の要請に基づいて、フィギュア競技場の建設とリーサー湖に面したボブスレー・コースの拡張に関わる基本的な問題を明確化する話し合いを行った。ツークシュピッツ鉄道駅の近くにあり、帝国鉄道の所有地にフィギュア競技場を建設するという建築家ハンス・オスター（Architekt Hanns Oster, Garmisch）の提案に賛同が得

冬季オリンピック「ガルミッシュ＝パルテンキルヘン大会」

られた。同年、8月23日、第4回冬季オリンピック組織委員会が発足した。大会組織委員会の委員長にフォン・ハルト博士が正式に選出された。また、9月1日には、ガルミッシュ＝パルテンキルヘンに本部を置く「(社)第4回冬季オリンピック組織委員会」(Organisationskomitee für die IV. Olympischen Winterspiel e.V.)がバイエルン・ガルミッシュ区裁判所の団体登記簿に登録された。10月10日、グーディベルク (Gudiberg) における大オリンピック・シャンツェ (Große Olympia-Schantze) の建設に関して、シェック市長 (Bürgermeister Scheck) の指揮のもとに、建築家アルビンガー (A. Albinger, Partenkirchen) およびルーター (C.I. Luther, D.S.V) の計画に従って、ジャンプ台の協議が開始された。10月27日、帝国・プロイセン内務省において冬季大会の資金調達についての協議がなされた⁽⁷⁾。

大会組織委員長が、各国のオリンピック委員会に対して、第4回冬季オリンピック競技参加の招待状を送ったのは、同年、10月20日のことであった⁽⁸⁾。

2. オリンピックの予算

オリンピック・ガルミッシュ＝パルテンキルヘン大会の予算書(補正後)を検討する。同オリンピック大会による収支は、収入が241万ライヒスマルクであったのに対して、支出は261万ライヒスマルクであり、収支差額をライヒが補填することとなった。([表1] 参照)

表1 オリンピックの収支(単位 ライヒスマルク)

収入の部合計 (Summe der Einnahmen)	2,415,368.60
支出の部合計 (Summe der Ausgaben)	2,618,259.00
ライヒによる補填 (Restlicher Zuschußbedarf)	202,890.40

(典拠) WO1936, p. 74

予算の収入面では、オリンピック開催中の入場料および施設の恒常的な収入によって多くが賅われた。(以下、[表2] 参照)

オリンピックにおける競技場の入場料収入は、およそ93万ライヒスマルクであるが、オリンピックに関わるワッペン等の販売代金によって6万5千ライヒスマルクの収入を得た。また、オリンピック施設を日常的に営業することによる収入(約15万ライヒスマルク)もこれに加わった。

地元自治体からの補助金は、マルクト・ガルミッシュとマルクト・パルテンキルヘンがそれぞれ10万ライヒスマルク負担するほか、ミュンヘン市が5万ライヒスマルク、バイエルン州が8万ライヒスマルク拠出し、さらにライヒがおよそ90万ライヒスマルク拠出したほか、帝国スポーツ指導者 (Reichssportführer) 個人の出資があった⁽⁹⁾。

このうち、マルクト・ガルミッシュとマルクト・パルテンキルヘンによる出資分は結局ライヒが引き受けることとなった。そのため、ライヒの負担は、およそ110万ライヒスマルクに達した⁴⁰⁾。

表2 オリンピック予算 収入の部 (単位 ライヒスマルク)

補助金 (Zuschüsse)	
マルクト・ガルミッシュ (Marktgemeinde Garmisch)	100,000
マルクト・パルテンキルヘン (Marktgemeinde Partenkirchen)	100,000
ミュンヘン市 (Stadt München)	50,000
バイエルン州 (Land Bayern)	80,000
帝国 (Reich)	899,831.25
帝国スポーツ指導者 (Reichssportführer)	24,000
入場料およびその他の収入 (Eintrittsgelder und sonstige Einnahmen)	
スキー競技、氷上競技、ボブスレー (Skisport, Eissport, Bobsport)	929,101.98
その他 (Sonstige Einnahmen)	16,969.40
プログラムおよびワッペンの販売、オリンピック印章の売上 (Verkauf von Programmen und Abzeichen, Erlös von Olympiaabzeichen)	64,547.03
オリンピック施設の日常的営業からの収入 (Einnahmen aus dem laufenden Betrieb der Sportanlagen)	150,918.94

(典拠) WO1936, p. 74

支出面では、管理経費が最大である。競技施設関係の支出では、スキー・スタジアムおよびフィギュア・スタジアムに対する支出が多額に上っている。([表3] 参照)

当初予算においてガルミッシュの負担分、10万ライヒスマルクはガルミッシュ地域において整備されるボブスレー用コース (Bobbahn) 改築の費用に充当し、一方、パルテンキルヘン地域に整備されるスキーのジャンプ台 (Sprungschanze) の建設費、10万ライヒスマルクはパルテンキルヘンの負担とされていた⁴¹⁾。

表3 オリンピック予算 支出の部 (単位 ライヒスマルク)

スキー競技 (Skisport)	426,100
スキー・スタジアム (Skistadion)	411,000
野外競技場 (Offene Kampfbahnen)	15,100
ボブスレー (Bobsport)	
ボブスレー用コース (Bobbahn)	238,100
氷上競技 (Eissport)	593,500
フィギュア・スタジアム (Kunststadion)	550,000
リーサー湖施設拡張 (Ausbau Rießersee)	42,000
練習場 (Trainingsplätze)	1,500

冬季オリンピック「ガルミッシュ＝パルテンキルヘン大会」

管理 (Verwaltung)	1,099,000
全般的管理 (Allgemeine Verwaltung)	232,000
銀行利子 (Bankzinsen)	20,700
組織 (Organisation)	640,000
装飾、会議 (Ausschmückung, Kongresse)	69,000
スポーツ施設管理 (Verwaltung der Sportanlagen)	137,300
宣伝 (Propaganda)	37,900
兵舎建設 (Barackenbau)	86,500
車庫用テント建設 (Garagenzeltbau)	30,000
放送 (Rundfunk)	159
予備資金 (Dispositionsfonds)	10,000
清掃作業 (Aufräumungsarbeiten)	20,000
予備費 (Unvorhergesehenes)	50,000
公的任務支出 (Amtliches Werk und offizielle Ergebnisliste)	27,000

(典拠) WO1936, p. 74

3. 第9回冬季オリンピックの組織

大会組織委員会の構成を見よう。委員長はすでに指摘したように、カール・リター・フォン・ハルト博士で、副委員長は、フリードリッヒ・デールマンであり、いずれも金融業界を代表する人物である。

表4 大会組織委員会議長 (Präsidium)

委員長 (Präsident)	カール・リター・フォン・ハルト博士 (Dr. Karl Ritter von Halt, Mitglied im I.O.K., Direktor der Deutschen Bank und Disconto-Gesellschaft, Berlin)
副委員長 (Vizepräsident)	フリードリッヒ・デールマン (Friedrich Döhlemann, Generaldirektor der Bayer. Gemeindebank, Girozentrale München (Schatzmeister))

(典拠) WO1936, p. 26

大会組織委員には、帝国スポーツ指導者であり、オリンピック大会経費に対して個人で出資しているチャーマー・ウント・オステンが加わっている。また、ミュンヘン上級市長のほか、マルクト・ガルミッシュ＝パルテンキルヘン第1市長が地元から参加した。

表5 大会組織委員 (Mitglieder des Präsidiums)

テオドア・レーヴァルト博士 (Staatssekretär i.R. Exzellenz Dr. Theodor Lehwald)	Mitglied im I.O.K.
アドルフ・フリードリヒ公爵 (S.H. Herzog Adolf Friedrich zu Mecklenburg)	Mitglied im I.O.K.
ハンス・プフントナー (Geh. Reg.-Ray Hans Pfundtner)	Staatssekretär im Reichs- und Preußischen Ministerium des Innern
ハンス・フォン・チャーマー・ウント・オステン (Reichsportführer Hans von Tschammer und Osten)	
アドルフ・ヴァグナー (Staatsminister Adolf Wagner)	
ヴァルター・フォン・ライヘナウ (Generalleutnant Walter von Reichenau)	Komm. General des VII. Armeekorps und Befehlshaber im Wehrkreis VII
カール・フィーラー (Karl Fiehler)	Oberbürgermeister der Stadt München
ヤコブ・シェンク (Jakob Scheck)	1. Bürgermeister von Garmisch-Partenkirchen

(典拠) WO1936, p. 26

財務委員会には、前記フリードリッヒ・デールマンが金融界から参加し、議長を務める。このほか、帝国官庁および州官庁、また地元から第1、第2市長が加わった。

表6 財務委員会 (Finanz-Ausschuß)

議長 (Vorsitzender) フリードリッヒ・デールマン (Friedrich Döhlmann)	Generaldirektor der Bayerischen Gemeindebank - Girozentrale (Schatzmeister)
ハンス・リッター・フォン・レクス (Hans Ritter von Lex)	Ober-Reg.-Rat im Reichs- und Preußischen Ministerium des Innern
ジークフリート・フォン・ヤン (Siegfried v. Jan)	Ministerialrat im Bayerischen Staatsministerium für Unterricht und Kultus
アドルフ・ガイルホルター (Adolf Geyrhalter)	Oberbeamter der Bayerischen Gemeindebank - Girozentrale
ヤコブ・シェック (Jakob Scheck)	1. Bürgermeister von Garmisch-Partenkirchen
ヨーゼフ・トーマ (Josef Thomma)	2. Bürgermeister von Garmisch-Partenkirchen

(典拠) WO1936, p. 27

建設委員会の議長は、州の建設局から選出され、これに自治体建設局からの参加に加えて、地元の専門家が2名入っている。

冬季オリンピック「ガルミッシュ＝パルテンキルヘン大会」

表7 建設委員会 (Bau- Ausschuß)

議長 (Vorsitzender) マックス・ブリュックルマイヤー (Max Brücklmeier)	Dipl.-Ing., Landesbaurat, München
アーヌルフ・アルピンガー (Arnulf Albinger)	Architekt, Gemeinde-Bauamt Garmisch-Partenkirchen (Skistadion)
リヒャルト・パブスト (Richard Pabst)	Dr.-Ing. e.h., Berlin (Eisstadion)
ハンス・オスター (Hanns Oster)	Architekt, Garmisch-Partenkirchen (Eisstadion und Bobbahn)
シュタニスラウス・ツェンツィツキ (Stanislaus M. Zentzyszki)	Ingenieur, Berlin (Bobbahn)
カール・ノイナー (Karl Neuner)	Garmisch-Partenkirchen (Abfahrtsstrecken)

(典拠) WO1936, p. 27

広報委員会は、ライヒ官庁の人材を主体に構成されている。

表8 広報委員会 (Propaganda- Ausschuß)

議長 (Vorsitzender) フリッツ・マーロ博士 (Dr. Fritz Mahlo)	Oberregierungsrat im Reichsministerium für Volksaufklärung und Propaganda
ハンス・ゲルト・ヴィントナー (Hans Gert Winter)	Direktor, Reichsbahnzentrale für den Deutschen Reiseverkehr
パウル・ヴォルフム (Paul Wolfrum)	Direktor, Landesverkehrsverband München und Südbayern e.V., München
オットー・ゲッツ・リッター・フォン・ハイリングブルンナー (Major Otto Goetz Ritter v. Heilingbrunner)	Direktor, Reichsfremdenverkehrs-Verband, Berlin
アントン・ライティンガー (Anton Reitinger)	Kurdirektor, Garmisch-Partenkirchen

(典拠) WO1936, p. 27

競技に関する専門委員会は、スキー、氷上競技、ボブスレーの分野ごとに編成され、このうち、スキー競技専門委員会とボブスレー専門委員会の議長はミュンヘン市から選出された。

表9 スキー競技専門委員会 (Fachausschuß für Skisport)

議長 (Vorsitzender)	ヨーゼフ・マイヤー (Josef Maier, München)
特別任用 (z.b.V.)	カール・ノイナー (Karl Neuner, Garmisch-Partenkirchen)
長距離走 (Langlauf)	グスタフ・シュミット (Gustav Schmidt, München) カール・ベッケルト (Karl Beckert, Garmisch-Partenkirchen) エティエヌ・マグニン (Etienne Magnin, München)
ジャンプ (Sprunglauf)	グイ・シュミット (Guy Schmidt, München) ルドルフ・ガイガー (Rudolf Geiger, Berchtesgarden)

滑降・スラローム (Abfahrtslauf und Slalom)	ハンス・フォッチュ博士 (Dr. Hans Votsch, München) ルドルフ・シンドル (Rudolf Schindl, Garmisch-Partenkirchen) ヨハン・ノイヤー (Johann Neuer, Garmisch-Partenkirchen)
バイアスロン (Militär-Patrouillenlauf)	オーベルスト・ディートル (Oberst Dietl, Kempten)

(注) z.b.V. = zur besonderen Verwendung

(典拠) WO 1936, p. 27

表 10 氷上スポーツ専門委員会 (Fachausschuß für Eissport)

議長 (Vorsitzender)	ヘルマン・クレーベルク (Hermann Kleeberg, Berlin)
	マックス・エンゲルハルト博士 (Dr. Max Engelhard)
特別任用 (z.b.V.)	ルドヴィヒ・リヒンター (Ludwig Ryhinter, Garmisch-Partenkirchen)
アイスホッケー (Eishockey)	アルフレット・シュタインケ (Alfred Steinke, Berlin) ハインリヒ・クラウジング (Heinrich Clausing, Garmisch-Partenkirchen)
スピードスケート (Schnellauf)	ヴァルター・グルント (Walter Grund, Berlin) カール・ノイシュティフター (Karl Neustifter, München)
フィギュア (Kunstlauf)	ハンス・ケック博士 (Dr. Hans Keck, Frankfurt a.M.) ダンネンベルク博士 (Dr. Dannenberg, Berlin)
気象業務 (Wetterdienst)	ハンス・ヘアツォク (Hans Herzog, München)
氷上射撃 (Eisschießen)	ヨーゼフ・デツチュ (Josef Dötsch, Zwiesel)

(典拠) WO 1936, p. 28

表 11 ボブスレー専門委員会 (Fachausschuß für Bobsport)

議長 (Vorsitzender)	ハンス・エドガー・エンドレス (Hans Edgar Endres, München)
	エルヴィン・ハッハマン (Erwin Hachmann, Berlin) アレックス・グルーバー (Alex Gruber, München) ハンス・ライザー (Hans Reiser, Garmisch-Partenkirchen) シュタニスラウス・ツェンツィツキ (Ing. Stanislaus M. Zentzytzki, Berlin)

(典拠) WO1936, p. 28

表 12 ガルミッシュ＝パルテンキルヘン・オリンピック交通局
(Olympia-Verkehrsamt der Gemeinde Garmisch-Partenkirchen)

局長 (Leiter)	マックス・ヴェルネック (Direktor Max Werneck, Garmisch-Partenkirchen)
	マックス・ウルバン (Max Urban, Garmisch-Partenkirchen)

(典拠) WO1936, p. 28

4. 交通と宿泊状況

ヴァイルハイム～ムールナウ間、21.4km はすでに 1879 年にバイエルン国鉄 (Bayerische Staatseisenbahn) として開通していた、ムールナウからパルテンキルヘンに至る 25.2km の鉄道 (Murnau-Partenkirchner Eisenbahn) は、1889 年に開通した¹²⁾。

同鉄道は「ムールナウ・パルテンキルヘン鉄道」と称していたが、駅の名称は、ガルミッシュ＝パルテンキルヘンとされた。同区間の建設は、ミュンヘン・ローカル鉄道株式会社 (Localbahn-AG München) (略称、LAG) によって行われ、1900 年にはミュンヘンからの直通列車が運行された。ガルミッシュ＝パルテンキルヘンとインスブルックを結ぶ路線がバイエルンとオーストリアの条約に基づいて構想され、ムールナウからガルミッシュ＝パルテンキルヘンに至る路線の整備が要請されたことによって、同区間は、1908 年にバイエルン国有鉄道によって買収されることとなった¹³⁾。

ガルミッシュ＝パルテンキルヘンとインスブルックが鉄道によって結ばれたのは、1912 年のことであった¹⁴⁾。

このようにして、ガルミッシュ＝パルテンキルヘンは、20 世紀初頭には、ミュンヘンおよびオーストリアのインスブルックとの鉄道連絡が完成した。

オリンピック開催に際して、「ドイツへの旅行交通規程」(Bestimmungen für den Reiseverkehr nach Deutschland) によって、外国通貨およびドイツ通貨のドイツへの持ち込みは制限なく許可されることを定めた「外国為替規程」(Devisenbestimmungen)、第 9 回冬季オリンピック大会には、1936 年第 11 回ベルリン・オリンピック大会において与えられるのと同様の鉄道、船舶、航空運賃軽減が与えられることを定めた「旅費軽減」(Reise-Ermäßigungen) およびドイツ帝国鉄道は、居住地から国境駅を経てガルミッシュ＝パルテンキルヘンに至る経路および帰路の区間に関して、オリンピック競技参加者には 75kg までの手荷物と運動用具を無料で運搬することを認める「輸送費軽減」(Transport-Ermäßigungen) が適用された¹⁵⁾。

オリンピック開催中のガルミッシュ＝パルテンキルヘン滞在者数を [表 13] に示した。全体では、閉会式の行われた 16 日が最大の値を示している。開会式当日においては、自動車による外部からの訪問者が多数を占めているが、競技が行われている期間においては、鉄道利用者が圧倒的多数を占めている。

表13 オリンピック期間中におけるガルミッシュ＝パルテンキルヘン滞在者推計

	居住者および滞在者 (1)	外部から到着し、晩に戻った者			合計
		帝国鉄道利用者	自動車利用者	その他	
2月6日	24,000	11,300	12,000	1,700	49,000
7日	25,500	8,000	4,000	500	38,000
8日	25,600	12,800	5,000	1,000	44,400
9日	25,500	28,600	10,000	2,000	66,100
10日	23,000	12,600	2,000	500	38,100
11日	23,000	12,700	3,000	1,000	39,700
12日	22,500	17,500	3,400	1,000	44,400
13日	24,500	24,100	9,000	2,500	60,100
14日	25,000	21,200	9,000	1,000	56,200
15日	24,400	24,700	4,500	1,200	54,800
16日	26,000	67,400	60,000	3,500	156,900
	24,450	21,900	11,100	1,450	59,000

(1) 警察官 (Polizei)、警護 (Absperredienst) などを含む
(典拠) WO1936, p. 68

宿泊地域においては競技の行われているガルミッシュ＝パルテンキルヘンおよび隣接するファールヒヤント、グライナウに宿泊者が多く見られた。

表14 オリンピック期間中における町村別人口および警察に届け出のあった宿泊者

町村等 (Ort)	居住人口	滞在者
ガルミッシュ＝パルテンキルヘン (Garmisch-Partenkirchen)	10,110	12,537
エッシェンローエ (Eschenlohe)	610	206
エッタール (Ettal)	966	623
ファールヒヤント (Farchant)	734	3,706
コールグループ (Kohlgrub)	1,288	316
クリュン (Krünn)	608	621
ミッテンヴァルト (Mittenwald)	2,722	3,844
オーバーアマーガウ (Oberammergau)	2,281	2,643
オーバーアウ (Oberau)	601	676
オーバーグライナウ (Obergrainau)	651	1,373
オールシュタット (Ohlstadt)	1,087	114
ザウルグループ (Saulgrub)	617	81
シュヴァイゲン (Schwaigen)	227	—

冬季オリンピック「ガルミッシュ＝パルテンキルヘン大会」

ウンターアマーガウ (Unterammergau)	828	347
ウンターグライナウ (Untergrainau)	500	690
ヴァルガウ (Wallgau)	573	302
ヴァムベルク (Wamberg)	219	—
合 計	24,622	28,079

(注) 3日以上滞在は警察への届け出が必要である。
(典拠) WO1936, p. 6

外国人宿泊者は南東ヨーロッパを起点とするものが最も多く、これに次いで西ヨーロッパ、アメリカ、スカンジナビアからの来訪者が多い。前年同期と比べて、特に増加が著しいのは南東ヨーロッパ (4.67 倍)、バルカン (3.74 倍)、アジア (2.7 倍)、スカンジナビア (2.5 倍) であり、逆に西ヨーロッパからの来訪者が減少している。

表 15 外国人滞在者 (オリンピック参加者を含む) の内訳

世界の地域	1936年2月	1935年2月	国 名
スカンジナビア (Skandinavien)	499	198	Dänemark, Schweden, Norwegen, Finnland
東ヨーロッパ (Osteuropa)	242	153	Danzig, Polen, Randstaaten, Rußland
南東ヨーロッパ (Südosteuropa)	991	212	Österreich, Tschechoslowakei, Ungarn, Jugoslawien
バルカン (Balkan)	101	27	Rumänien, Bulgarien, Griechenland
イタリア・スイス (Italien-Schweiz)	427	261	
西ヨーロッパ (Westeuropa)	903	1,095	Frankreich, Belgien, Luxemburg, Niederlande, Spanien, Portugal
イギリス (Großbritannien)	487	250	
アメリカ (Amerika)	505	74	Vereinigte Staaten, Kanada, Mittelamerika, Südamerika
アジア (Asien)	184	68	
アフリカ (Afrika)	29	30	
オーストラリア (Australien)	7	1	
その他 (Sonstige)	7	11	Oben nicht genannte europäische Staaten
合計 (Zusammen)	4,382	2,380	

(注) Kurverwaltung Garmisch-Partenkirchen により把握している滞在者数
(典拠) WO1936, p. 69

注

- (1) この記録には最年少で参加した、女子フィギュアスケートの稲田悦子の映像が2か所に掲載されている。
(WO1936, p. 372, p. 374)
- (2) この点については、IOC, *The International Olympic Committee - One Hundred Years, The Idea - The Presidents - The Achievements*, Volume 1, Lausanne, 1994. 和訳、NPO 法人日本オリンピック・アカデミー公式サイト (<http://www.olympic-academy.jp>) 掲載、「国際オリンピック委員会の百年 第1巻」(穂積八洲雄訳)、パイエーラツール会長の時代(206ページ以降)に詳しい。
- (3) WO1936, p. 29
- (4) WO1936, p. 32
- (5) Heimerzheim, P., *Karl Ritter von Halt - Leben zwischen Sport und Politik*, Köln, 1999
- (6) WO1936, p. 32-33
- (7) WO1936, p. 33
- (8) WO1936, p. 34
- (9) 帝国スポーツ指導者チャマー・ウント・オステン (Hans von Tschammer und Osten) については Steinhöfer, D., *Hans von Tschammer und Osten, Reichssportführer im Dritten Reich, Berlin*, 1973 および 明石真和「第2次大戦期のドイツのサッカー」『駿河台大学論集』第32号、2006年、51ページ
- (10) WO1936, p. 74
- (11) WO1936, p. 71
- (12) Kobschätzky, H., *Streckenatlas der deutschen Eisenbahnen 1835-1892*, Düsseldorf, 1971, p. 23, p. 45
- (13) Bürnheim, H., *Localbahn-AG München*, Gifhorn, 1974; Kuchinke, S., *Die Localbahn Actiengesellschaft - Eine bayerische Privatbahn und ihre Geschichte*, Stuttgart, 2000
- (14) Innsbrucker Nachrichten, 248/1912, 28.10.1912, in: Österreichische Nationalbibliothek, Historische österreichische Zeitung und Zeitschriften, in interete sub, <http://anno.onb.ac.at/cgi-content/anno?apm=0&aid=ibn&datum=19121028&seite=08>, 07.05.2013
- (15) WO1936, p. 67